



# 宮城県スキー連盟創立90周年記念事業 研修会(セミナー)

## アンケート集約結果

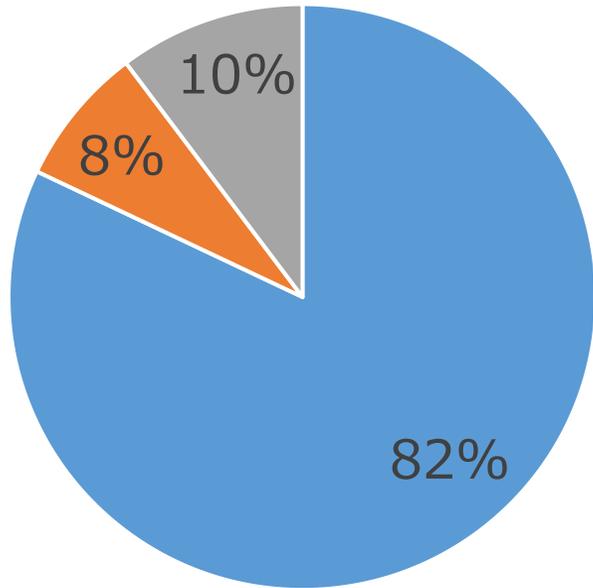
**有効回答者数 78名**

※参加者皆さまの率直なご意見を取り纏めるために、実行委員15名については、カウントしておりませんので、ご承知願います。

2024.6.29(土) 15時30分～17時30分  
東北学院大学土樋キャンパス  
ホーイ記念館H301号室

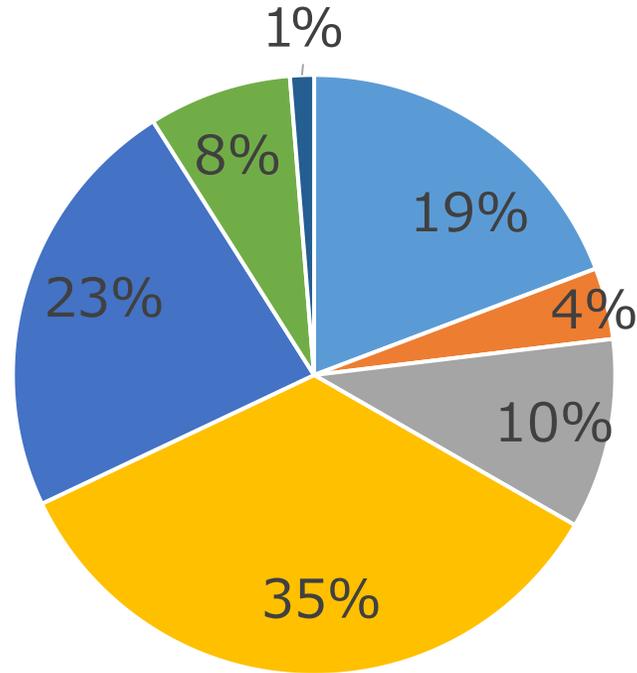
# アンケート回答者:属性

## 性別



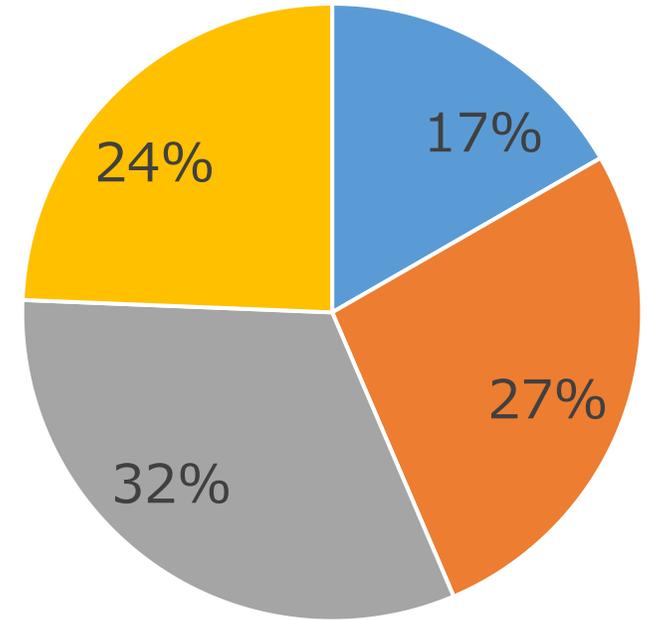
■ 男性 ■ 女性 ■ 無回答

## 年代



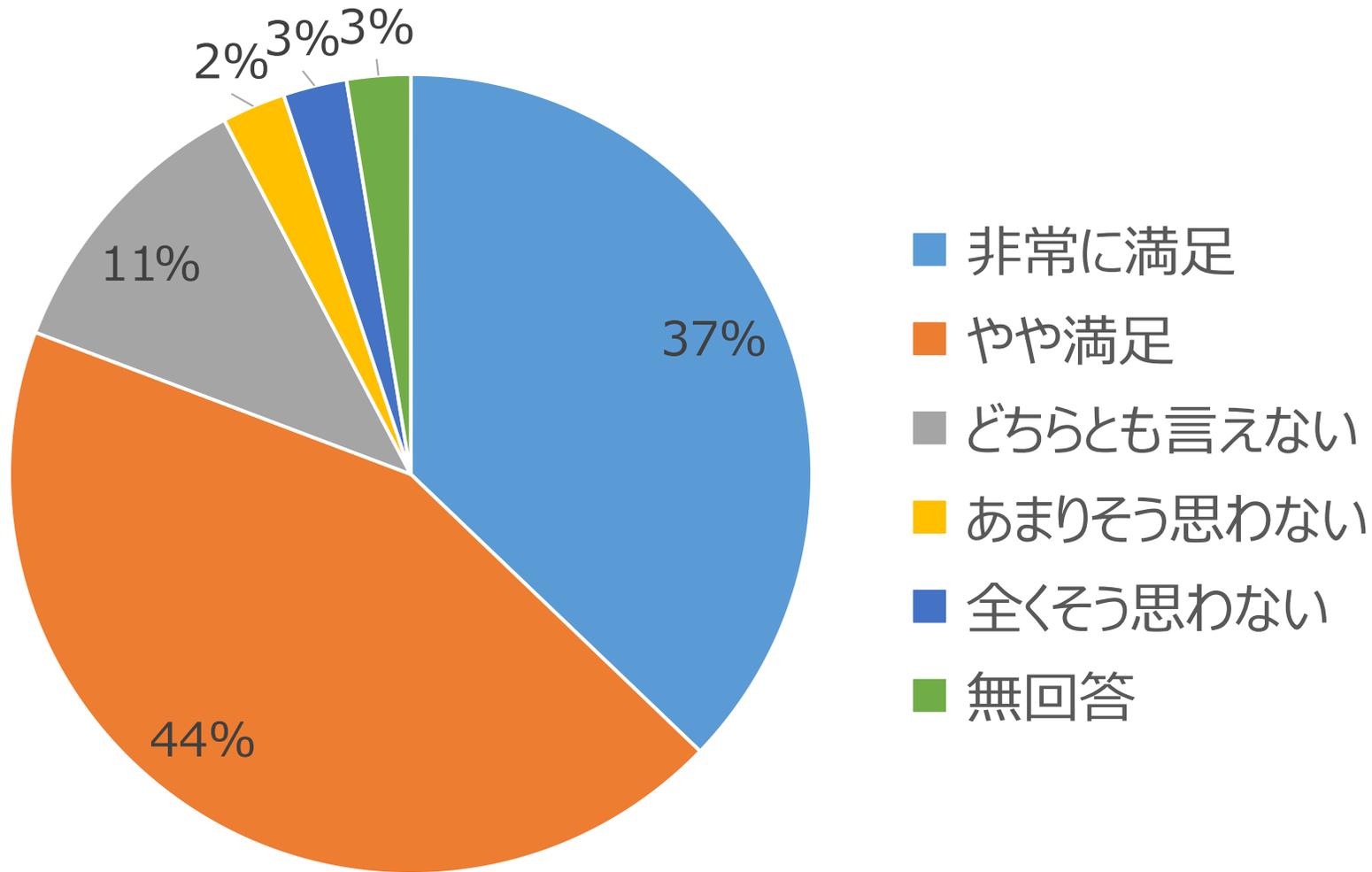
■ ~20代 ■ 30代 ■ 40代  
 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代  
 ■ 無回答

## 所属



■ 仙北 ■ 仙塩 ■ 仙南 ■ 無回答

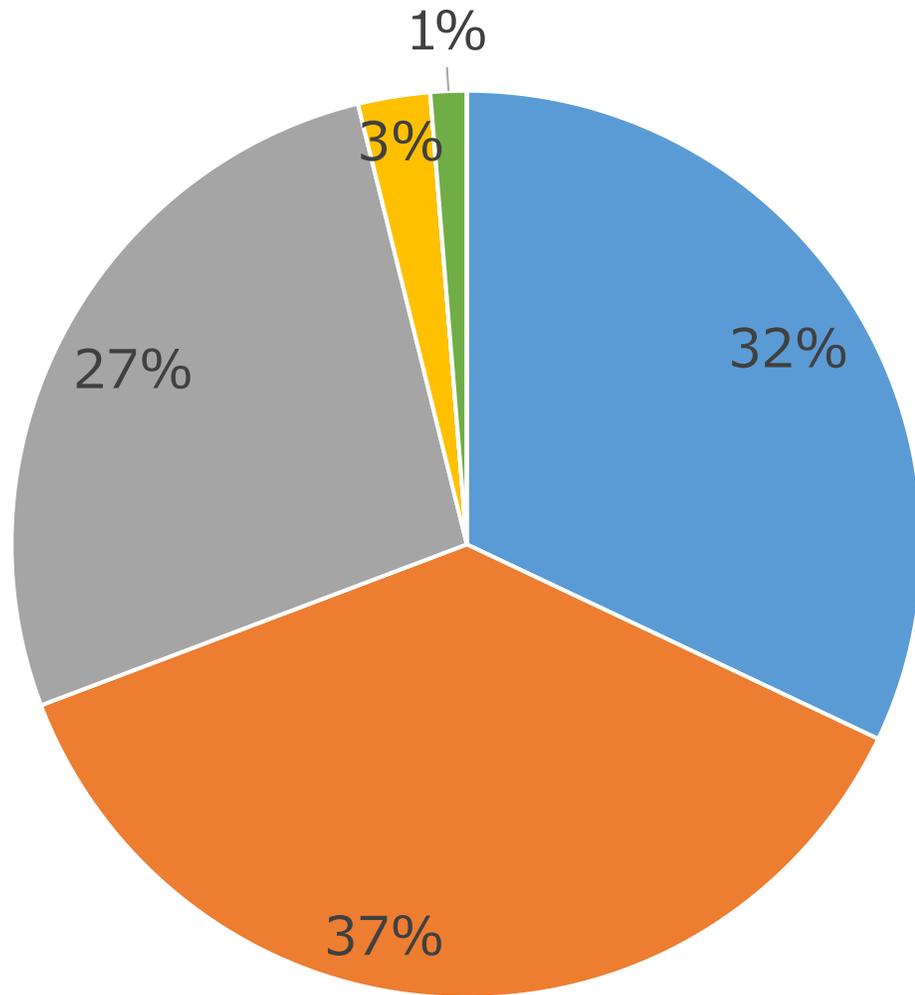
# Q1\_ 今回の研修に参加してみても良かったか？



**81%の方が満足**

※非常に、ややを含め

# Q2\_今後、今回の様な案内があれば参加しますか？



69%の方がまた参加したい

※ぜひ、タイミングあえばを含め

- ぜひ参加したい
- タイミングがあえば参加したい
- 研修会の内容による
- どちらとも言えない
- 全く参加したいと思わない

内容次第で96%  
の方がまた参加し  
たい

※ぜひ、タイミングあえば、研修  
会の内容によるを含め

# Q3\_研修会に関してのご意見、ご感想 (1)

## 前向きなご意見 (抜粋)

スキー業界の課題が明確にわかりました。宮城県スキー連盟には課題解決に向けた行動に期待しております。

恐竜にならないように対策をしなければいけない。健康寿命を延命するためにスノースポーツをPRしていきたい。

指導者研修会で行ってはどうか。

会員でひとつのテーマに添い、色々な情報を聞くことができ、共通の認識となり、活動に繋がられるキッカケとなり良かったと思う。

ご老人や若者をスキーに引き込むため、スキーの技術だけでなく、スキーを通してコミュニティを形成する意義を理解した。

多方面との連携・協力を積極的に進めていきたいとあらためて感じたセミナーでした。

問題点を提起して本音で話す必要があると強く思った。

若い人をもっと集めると若者の協力がさらに広がると思った。

危機感を持つことの重要性を学ぶとともに、今後いかに情報共有が重要か学びました。

# Q3\_研修会に関してのご意見、ご感想 (2)

## 前向きなご要望 (抜粋)

少子高齢化、温暖化、若者のスポーツ離れ等、以前に聞いたことのある課題の提言の羅列が続いたが、それに対しての橋さんの対応策のアイデアについてもっと話を聞きたかった。

時間の制約があったと思うが総論よりも各論の話をききたかった。特にスキー業界の経営について話を伺いたかった。

プロジェクターの資料が文字が小さく見えなかったことが残念だった。資料が手元に欲しかった。

プロジェクター使用時、部屋は暗めが良いと思いました。もっと若い人向けの話が聞きたかったです。

実行できるような現場で具体的な方法があれば教えて欲しかった。

課題に対して具体的な解決策が見えてこない。データやアンケート等、信憑性があるのかという情報が多かった。どんな方に何人のデータをとったという具体性がない。宮城のスキー業界、こういった規模のスキー場があり、こういった客層が多いのかといったリサーチが必要。ニセコの例を出されてもあまりにも別の話すぎる・・・。

スキー、ウィンタースポーツの「課題」ばかりで結局、活性化、課題解決策がわからないままで何が言いたかったかわからなかった、話にならん。

# Q4\_県連に期待することなどフリーに (1)

ジュニアの育成を強化してほしい。特に「アルペン」「デモ」の垣根なく、かつ、スクール横断して宮城県スキー連盟が主催してジュニア全体を支援できる施策を期待しております。

スキー未経験者がスキーに魅力を感じる情報を積極的に発信してってください。スキー業界活性化の為に、行政への働きかけや教育機関への働きかけ。

スキー連盟とスキー場との連携を更に強めて行事を行う事を考えて行く。エンターテインメントの観点から、スキー指導者は考え方を変えなければならないと思います。マーケティングの観点から、宮城県スキー連盟として進めて(トライ)してみるべきと考えます。

今までの考え方をまったく変えて5年後の組織をイメージして、なにをすべきか考えて予算を作してほしい。会費の値上げも考えていく時期にきているのではないかな。

参加されている方の中に若い方もいるように感じた。そういう方が中心になるような企画があればいいかなと思いました。

ブロックの横の繋がりのお機会創出、交流の場を作り意思の疎通を図る。

インバウンド対応のための研修。

# Q4\_県連に期待することなどフリーに (2)

各スキー場、自治体、企業との連携(三位一体構想)。明確な目標。スキー連盟として何をしたいのか、普及発展? 誰に?補助?選手?。滑りやすい環境作りを考えてほしい、ハード面、ソフト面、そのためにも三位一体の考え方は必要。宮城ならではの特色づくり。ターゲットの絞り込み。宮城のスポーツの共有、共同、一体的な取り組み。

まずは資金を集める必要があると思いますので、まずスポンサー集めに労力を使ってみては如何でしょうか。

選手がどうこうではなく、スキーやる人がいるかいないか、SNSを選手がやっていない、海外展開していない、如何に行政をスキー連盟に絡ませるか、年寄り向け?若者向け?たとえカラオケやってもいかない、スキーすることがアンチエイジング、女性が集る所は金だと思ふ。

毎年発行される「スキーみやぎ」はそろそろ電子化を考えても良い時期なのではないでしょうか(経費圧縮の観点)

役員(理事等)や評議員に捉われず、各所属団体の会長や事務局も対象とした運営方針や財政計画を審議する場を設けていいのではと思います。

連盟とスキー場は方向性を一体で進めるべき。

今後、これらの内容をどう進めていくのか、それぞれ役割を分けて考えていく必要があると思います。ガンバレ宮城県スキー連盟の関係者の皆さん!